

# 南浦和中だより

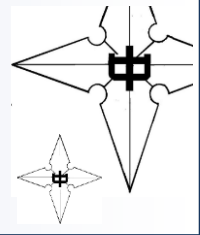
〒336-0026 さいたま市南区辻 6-1-33

TEL 048(863)0753

FAX 048(836)1589

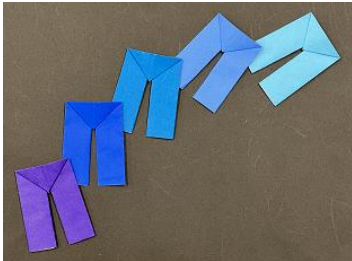
さわやか相談室直通

TEL 048(837)5909



## 『ブルージーンズ・メモリー』

校長 おお こ うち のり かず 大河内 範一



皆様、新春のお慶びを申し上げます。本年も希望いっぱい、元気いっぱい、笑い声いっぱいの一年になりますように！

先日、アウトレットに行った際、ジーンズの店に立ち寄った。価格が半額で、2本目からはさらに半額になるという、とにかく得した気分になる仕組みだったので、家族みんなでジーンズを購入することにした。

昔から私が好きなブランドは「LEVI'S (リーバイス)」である。品番の数字で呼ばれているのが特徴で、例えば『501』(ゴーマルイチと読むとカッコいい)は、ジーンズの原点ともいえる完成されたストレートシルエットのもの。そして、私のお気に入りには『505』(ゴーマルゴね)で、腰回りにゆとりがあり、ヒップラインが美しい。しかもストレッチ素材を採用していることが多く、とても動きやすいのである。今回もこの『505』を見つけたので試着してみると、まるで自分のために仕立てられたかのようにフィットした。もう一生このジーンズでいいとさえ思えるほどだった。

思えば20代前半、職場の旅行で「大河内さんは、世の中の教員の中で一番ジーンズが似合うなあ」と、酒に酔った先輩に冗談で褒められたことがある。真に受けた私は、年を重ねた今でもジーンズ好きのままでいる。褒め言葉は時に人生を決定づける。

「ベストジーニスト」という、最もジーンズが似合う有名人を選出する賞がある。本当は私も受賞してみたかったのだが、今回は目黒蓮と今田美桜が選ばれた。2連覇を達成した目黒蓮は「1年のうち350日くらいは何かしらのジーンズを穿いている」と豪語する強者である。私も良きライバルとして、今後も彼の動向に注目していくことにする。ちなみに3回受賞すると「殿堂入り」になるのだが、木村拓哉(正月番組のババ抜きでは「最弱王」でしたね…)もそのひとりで、ジーンズの歴史や文化を理解し、自分なりのスタイルを貫く真の愛好家なのである。私も永遠の宿敵として、彼のYouTubeを時々チェックしている。

ジーンズの最大の魅力は、使い込むほどに味わいが増して、持ち主の人生の証が刻み込まれていくことである。穿き続けることで生まれるシワや色落ちは、持ち主と共に歩んできた歴史そのものなのである。また、最近は「推し活」という言葉が定着していて、生活に癒しやハリを与え、自己肯定感を高める力があるという。私もジーンズを改めて推し活に加えたいものだが、ラーメン、ガンダム、ウルトラマン…、推し活が少し多いかもしれない。ただし、人生は好きな物に囲まれているほうが楽しい。

皆様にとって新しい一年が、ジーンズのシワや色落ちのように、それぞれの歴史を重ね、すべてが物語になっていくような味わい深い日々になることを願っている。